

特定非営利活動法人自遊の広場 令和7年度事業計画書(案)

1 はじめに

A)法人事業全体を通して

- 令和6年度事業報告で、当法人組織が世代交代を考える時期と書いた。その意味で法人本部とすずかけの家がある篠原地区及びやまぼうしの家のある名倉を含めた藤野地域は、若い層が入り込んでいる。昨年もイベント等はほぼ毎週行われた。その意味では世代交代が大いに進んでいる。「自然豊かな里山での」活発な活動は、今後も期待できよう。
また組織については、介護職員募集は思うようにならず、有能な有償無償のボランティアに支えられてきた。これから職員募集に本腰を入れたい。
- 他方建物的に見れば、二つの事業所共修理・手直し箇所が増えてきた。また、大家さんの世代交代に伴う状況変化もあり得るだろう。「古民家再生プロジェクト」は今年、より活発にならざるを得ない。
- 経営面では、介護報酬依存を変えるという課題は引き続く。小規模多機能居宅介護という介護保険サービスは、全国的にみても黒字経営は半数を若干超える程度である。そのうえ訪問介護は危機的状況だし、介護労働者や保育労働者も人手不足に喘いでいる。
藤野情報交換会当を通して、社会的問題として、地域を通して何らかのアクションも必要であろう。
- 中期計画は、3年目に入る。職員達は直接処遇だけでなく地域との関わり等いろんな仕事を抱えているが、新しい仲間を入れるなどして、良い成果を得ていきたい。

ア)【すずかけの家事業計画】

今年度も利用者の人数が安定していた。これを維持していくために「すずかけの家」の広報・通信だけではなく SNS 等の媒体も使い引き続き力を入れていく。また地域に積極的に出ていくことで認知度も高めていきたい。そして基本的には24年度の事業を継続しながら一つ一つの活動をより高めていきたい。

コロナ以降閉鎖に追い込まれる事業所も多い中で事業を継続していくためには「すずかけらしい・すずかけだから出来る事」を模索していきたい。「通い」「訪問」「泊り」を通して一人ひとりの生活を丸ごと見ていく。その人らしい暮らし方の支援を手助けする。そのためにも地域の方々やボランティアの方の協力はとても心強い。小規模多機能すずかけの家は24時間365日が営業日だが利用者に24時間ついていられるわけではない。そんな時は近隣の方の声掛けや見守りもお願いしているケースもある。地域の力も借りながら高齢者にとって地域でより長く生活できる仕組み作りを考えていきたい。

- ・職員の研修 介護技術のスキルアップのための外部研修・内部研修の充実
- ・職員の多様性を活かした介護。
- ・生活リハビリ ラジオ体操・嚥下体操等の充実
- ・びんたぼ農園の活用
- ・保険外サービスも併用しながら利用者の要望も聞いていく

イ) やまぼうしの家 令和7年度事業計画(案)

引き続き高齢者等シェアハウスとして運営して行く。また、入居者が3名を維持していきたい。

- ・入居者の方のその人らしい生活を保障するために職員が援助する。
- ・共同生活をしながらも個々の生活を大切にする。
- ・防災訓練や運動会・お祭り等地域の行事に積極的に参加する。

という理念は継続していきたい。

この先入居者の年齢が上がることで新しい課題も出てくると思われるが柔軟に対応していきたい。

また、空き部屋の活用方法についても考えていく必要がある。今の職員体制では入居者を増やす事は難しいので昼間何らかの形で活用できないかを検討していきたい。

ら)フレイル事業 ハート de グリーンサポート 事業計画 (案)

【事業目的】

「ハート de グリーンサポート」は、自然や植物と関わる農園活動を通じて地域住民が交流し、生きがいを見出すことを目的としています。高齢者のフレイル予防に重点を置き、誰もが関わりやすいコミュニティガーデンを目指します。

【2025 年度 重点取り組み】

◎コミュニティガーデンプロジェクト「びんたば農園」

- ・若者グループや地域住民の新たな参加を活かし、魅力あるガーデン空間をつくる。
- ・近隣の園芸家や参加者と協力し、ガーデンの全体デザインを作成。
- ・月1回の定例作業（野菜・花の管理、種まき、収穫、区画整備、草刈りなど）。
- ・年2回の共同整備作業（コンポストトイレ作り、柵の補修など）を通じて環境整備と交流促進。
- ・交流イベントの開催（バーベキュー、芋煮会、枝豆会）により世代間交流を深める。
- ・高齢者が体を動かし交流できる場として活用する（フレイル対策）。
- ・レイズドベッド（高床栽培）、手すり、腰掛けなど、体の機能が低下しても利用しやすい環境整備を進める。
- ・菌ちゃん農法、不耕起栽培など多様な農法を試して景観的にも広がりある空間にしていく。

◎園芸ワークショップの開催

- ・7月：多肉植物寄せ植えワークショップ（講師：地域の園芸家）
- ・3月：園芸ワークショップ（新規講師を招いて開催）
- ・園芸の楽しさや知識を共有する機会を増やし、交流と認知度向上を図る。

◎作業人員の確保

週1回の有償ボランティアを継続的に確保し、農園の維持管理を安定化。誰にとっても心地良いガーデンを目指す。

エ) お楽しみ講座「じじばば自由大学」の運営

今年5月に「相模湖ダム・何のため・誰がつくったの？」を開催。参加者から活発な意見・質問が出た。

じじばば・・・」は再開して7回目を数えたが、恒常的に20人位が参加してくれる。

そして、昨年大成功だった親子講座をまた企画したい。いずれにしろ、今まで知らなかったような親子や、藤野以外の方も参加してくれるようになった。

テーマを厳選し、映画上映等もやってみたい。

オ) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

◎イベント事業

これまで同様に、地域との繋がりを意識したイベントを大事にしていく。
地域との交流を図り、団体の活動を広めるため、主催イベントを開催する（落語会、映画上映会等）。

また、地域イベントに積極的に参加する（しのばら園芸市、ぐるっとお散歩篠原展等）。
合わせて、サポーター会員等の協力者（個人、団体）がすずかけの家やコミュニティガーデン等を活用したイベントを開催できるようにする（しのばら一箱古本市等）。

◎サポーター会員制度

サポーター会員制度は、NPO 自遊の広場の活動を理解し、ともに支え合う仲間としての会員とともに、地域に根ざした持続可能な活動の土台を築くことを目的としています。

・魅力の発信と会員拡充

NPO 自遊の広場の活動や理念、実績をより分かりやすく、親しみやすい形で発信し、会の魅力が伝わる工夫を行います。パンフレットや SNS、地域メディアなど多様な広報手段を用いて、サポーター会員の増加につなげます。

・継続加入を促すしくみづくり

既存会員が継続的に加入したくなるようなしくみを検討します。すでに導入しているイベントの会員割引制度の周知を進めるほか、会員イベントの開催などを通じて満足度向上を目指します。

・会員の主体的関与

会員一人ひとりが自分の関心や得意分野を活かして関わるができる環境づくりを進めます。2024 年度末から立ち上がりつつある「コミュニティガーデンプロジェクト」などを起点に、会員がプロジェクトを企画・運営するスタイルを育てていきます。

・人材の発掘

今後の会員主体活動を持続可能なものとするために、プロジェクトチームをリードできる人材の発掘に努めます。特に「古民家再生」や「ボランティア活動」などを重点的に行います。

◎中期計画の実施

令和 5 年度に策定した中期計画（3 か年）を引き続き実施する。3 年目終了時モニタリングを行い、次の中・長期計画を策定する。

<主な活動>

※2 年目終了時のモニタリングで軌道修正した点を含む。

1. 資金の調達

活動の柱（3 年後の指標）

- ① すずかけの家の古民家改修ができている
- ② 必要に応じて寄附金を集めることができている
- ③ 物販収入が 8 万円になる
- ④ （すずかけの家の経営基盤の安定）
 - 1 すずかけの家の利用者 20 人をキープできている
 - 2 利用者のニーズに対応した職員体制ができている

3 会の魅力を発信する広報活動ができている

- ⑤ やまぼうしの家が黒字経営になっている
- ⑥ 新たな収入源の見通しができている

3年目の活動

- ① 古民家改修のための助成金申請をする。
古民家改修をする（床の張替え、ジャッキアップ、照明）。
- ② 会員募集と合わせて寄附集めをする。（2年目の活動を継続）
古民家改修のための寄附を呼びかける。（助成金が取れなかった場合）
- ③ 手作り品の販路拡大を図る。
- ④ 1
他事業所と連携して、国や行政への働きかけをする。（介護報酬のベースが低い、業務（報告や会議）が増えていることについて等）
行政とのパイプをつくる。
2
職員のスキルアップを図るための研修（内部、外部）を行なう。
常勤職員の労働条件を改善する。
職員募集をする。
3
情報発信の内容を再検討する。
- ⑤ 空き部屋の活用をする。
- ⑥ 移送サービス事業を検討する。

2. 役割の明確化

活動の柱（3年後の指標）

- ① 理事会が経営者として機能している
- ② 会員が100人いる
- ③ 各プロジェクトチームが活動している。プロジェクトチームを統括する事務局会議が機能している。

3年目の活動

- ① 新しい理事を探す。
- ② 会員がイベントや活動に参加できる機会を増やす。
人的広がりをつくるためのイベントを開催する（例：映画上映会）
会の魅力の発信力を高める。
情報発信の内容を再検討する。
- ③ 古民家再生チームを立ち上げる。専門家、チームリーダーの人材を探す。
すずかけの家での介護実践を充実させる。←プロジェクトチームの活動（広報、コミュニティガーデン）は、すずかけの家の現場の安定があってこそできる。
職員のスキルアップを図るための研修（内部、外部）をする。